湖月抄

梅の巻

宮曜文庫

梅枝 細 巻名以調号之 河 巻名薫物合ニ張本歟

梅のとりて梅がえをうゑ梅がえに付るあをうゑつる

てら 細 源氏九条 正月のまき 孟 二月のまき

あしぶれハ法ヒの老よりる大紙ふてハあ[illegible]
わ[illegible]。三光自筆ハ細字ハ書也。大紙ハ必潤色ハ[illegible]故ハ沸ハ[illegible]
閑ハ[illegible]。江帥匡房の沸ハ[illegible]ハ大学寮の十哲圖を[illegible]

[illegible]ねるぐのそ[illegible]ぐよ。古法の古世の
[illegible]ぐめ[illegible]ぐ。[illegible]ぐ。[illegible]ぐ。

[illegible]ぬべきなり。兼和は仁明天皇の年号
[illegible]。三つのわかつとは黒方と伽羅と[illegible]の三つ
[illegible]めの方[illegible]　細　黒方伽羅じ不傳男といふ制禁なりといでう法とい
[illegible]　喫茶回義
[illegible]花[illegible]よ[illegible]。不捨は[illegible]方より小寢殿(コシンデン)あり母屋の中とな[illegible]
[illegible]母屋の中をとり[illegible]。[illegible]晴の[illegible]　紙　紙出
母屋[illegible]梅[illegible]に[illegible]の中の敷おく[illegible]東乃對の母屋。中とて[illegible]母屋と[illegible]西の廂(ヒサシ)[illegible]
[illegible]　畧記
[illegible]　孟兵九條を中よりて[illegible]
[illegible]　細　敷物[illegible]
八条式アマ
○黒方　沉四兩　丁子二兩　甲一兩　薫陸二兩　麝香二分　蘇二分　丹松二分　伴二方故八条宮方[illegible]
○侍從　沉四兩　丁子二兩　甲一兩　麝香二分　蘇二分　丹松二分　伴二方故八条宮方[illegible]
[illegible]八条式アマ　本康親王一式ニ　号八条宮仁明天皇第七御子ニ名薫物合也
[illegible]式アマ[illegible]方[illegible]八条式アマ[illegible]方[illegible]
[illegible]　細　[illegible]
[illegible]　細　[illegible]
[illegible]　細　

ちんの弟よりのつき上ちを
をして　おなじくらまつ
せきふきを紙のさ敷器二つ
よ二枝へさうし
んぐらんのりよハ　味　ムの
折枝うぐこ成ハ手ぬぐし
てもこんぞりハ墨方に
孫ちうちく松よつけうる
ハ松ん宝こよ塩こう来
し墨方と宝手ぬぐ名
宝よをうれぬこうこ
ほのくらぐめて茶本の
枝よ和をけうハ皆をを色
よけうるこ色と紙猫鶴

付こうはこりて　細　ほのぶけうこ
こもあれ　孟　ちこの御こ
ばいりうれをこうそこのすくこ
ちれよりうとて　細　ぶ和間合のうをうれこ
ちこいるれくちこことこて　細　ほこ
ちりこをまやうよいそぐりのこまる
ちめりここそ　おなじくちこことこて
のこをよ　ちりのつきみてこれをて　ぶわさ
よまちうこつこれまこ　ふぐ　こんぞりよハ
ぬ和ふの枝　えぐ　ちうきよハ梅をえりて　ぶの
くひきひをひこちいとのこう酒も　ちうこび
こうよちう酒　ちうこうぐ　ちまこる　細　ちこの御
けこ酒　ちうこて　ぶめこまこる

の墨とハ松の枝よつけ面ちりの墨をこれ白梅の枝よ行こうこ下墨　花　ぶぬの松と梅
と折枝のやうにひとそえりこと　孟　一説ニ紅白の花乃中ニ白梅と擬て行こうこ
墨筆　雕撰　面伝の中　雕　と見こ　細流ちるんぶ　ぶ　ちのこよ折枝のやくノよつこりて
香ひりくこ　細　ひ合せ作ふ
花の香ハ　墨和ん白をこみちれも
こうこ　ぶこ　ぶ　ぶ　ぶ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

細 中よりの一枝のもとにみとられいまだくてはなくてふるさとにうつりかくれ
どもなほ残し 伊 ものこしとられもこころうがるうらんと合めるうの
ものとうらべし 拾 ものもの文のもろ人はもわくどやと早下し給ふ。梅と
うく吹和ろいていひもくどすぐれしう白ひどものかはよこれは流げをとこ
下みどりとれいろうるべく春其一ものこいてのいさうあとづくもわさうあるとく合せ花梅
の一枝ろくいす。春久の一枝し。御くばーくさんとどのうくうあとづこしし 盃 係の合ものこ
ろりかくこのいのらめとをこさ給うのわづ情
ちをの陳のとうんあよ
細 兼和の例拾よえくこう。
伊 兼和のは附太逝の陳
の附謙の色の花ようぶ
ゆまろ。後代相伝しそを
形とこうんどこうく花業
梅と理む。陳ど多れで
梅花。梅のりと。菊花は
菊のりこようぶむをこれ
ようもり
これろの寧れ 細 惟光系
後よ伝ものろの家よ給
てろこう。

のいの今そこしでこを給ものの迎ん 盃 おの全陳はあの方れ
のみりはあの迎ようどんてみのこう
八六の系流かもあのこ春のトこ
春のこりりいづうこぎいらうこうしけを
こりるとよ。惟光の寧れのみれ多湯斜り
て系われり。寧れ中拾とりてつんまとを
給こやいとんの泊こ奥してのめて
給りるみいてこ 細 みるりこ泊方ろるぎこと春川ごこうこり
ろりここいづくみもりつひろうべう

人くのくこよわろせこるる
つくさわくこと 伊 侍従
思方いづ思こをこれりこは
ゆめ方ものれども後く
よりてこを人の家巧
よりてが藏あるにろ
てうこうるのわるく
さりへど 細 陳と業上
こを思方と食を給へ
ど見いいつ思こうもも
づやうるけのこてを
ぐれこうこへ思方のふ
思いやうよるべこる
こそしこき拾の乱う
いふこりるこ 紅
ろづろうこりひ
牡丹心紅 こうあこうる平も
ろく。ものこりこうひ
こうこ
給侍はゆこのれは 細 竹侍
ゆるくせるふ人くこもん
どこを中して陳のもぐ
きてうこく
こうこあるゆに 細 梅花と

めうと人くこのくこよ合給つ。ものこを
をこざあくこをこるよいこけうあうこと
ゆわうりここよいづれこうこ中よ。妖流
のれこうづりこ。さいくどもこよくこづや
こうこ匂ひこなり。ものこいゆくこのれこ。
業花はとりこべこを暗こ
こくれこるる面めこうこうこうあり
ここざめ給。このこ乃れこここるる中
よ。梅花くれ
やここうこひとこくて。ものこ
ありくこくこ
こうこくこくこのこの風よこくこ
んよいこここ
こめで給。春のれ
こみはくこのこくこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月うち出めれば　花上の紅
よ二月十日とかり。西海二
代神とそるお遠さ

義人而　西義人而　厨上に
細六条院の厨上に師執
折大にあかりかりの。厨上
のひのうよ布陸よを
陸て。陸人而とうに。沈
下の者。雅家。
けぶん沙うて。ゲキ記。奏
細見系とて。記。嘱。嘗忌乃
礼く。抄人系と。今日雅
こまうりうと。交給と
注して。人人。人もうる。
義忌ゑどまもひるまり

梅ノ枝　西梅枝　催馬楽呂　私勘
入梅ノ枝よりの嘗去
けてこれ一作去けて
なけるも。いうと。賞八人
アうて。二作下賞

嘗の　細賞る禾の梅ノ枝
うるひしよ感。うう
うう。うと。嘗ぬ去
ともあうつみ。師さ
らでとんしめうる花の
わううよいぐ。詠曲メ
やわうれんとし
ふ代もへめし　細花ーう

うりてうるやうようてうて。う行いて
ゆもうう。西去八枝細花　夕者し　年れの中れうと年ふ
ふうりよあひうう。伯ノ井　細賞　雲井とうづう
うさうて。弁かれ梅ふうて。梅ノ枝
の名もよれうう　茅舎し　行いて。うう。うう。いうてうんふ
つぐ。が俳の者にあひもし　ようる。うさひ。去るり。去もれ
うぎのうり。言。花助音のうし
うぎとうう。去のひうぐうとうくうう
拍うう。かうう。去の。ひあそびうう。けうつ
けまうよ。去
嘗の。云
花うる花のあうりよ。代りへめぐ。うう
うしまへ

ぞ八のくに祝のわたりよ
依て山鳥さらわり
西山までの飛迄よんの
わくがれん死しらるぞ
いらるとへ久し
さもも 細 保の方くに
わたりを結ぶ四絡合
盃れぞもわるんとい
うぞも汝者伝わるべ
海見せんとも
芳の 細 秋中ねの宰れ中
ねよまりて結作を
結ぶ、盃々芳の絡とれ
ちてのく
ふわりて風のうぐる
細 秋中ねの宰れ中
花風ぞふもんてうさぬ
花と流やしろべさとる。
宰れ中待ぶ横笛ず
とまりうさて下の句よ信
ぞうしいくる！
歌ぞよ 細 秋のぬもバ芳
ふくらげよるくるめるり。
うれば歌ぞよるくふ秋の

保 名ぞも名ぞうもむるるる
さくやどとうれどとあ〜ふん 歌中ねよ盃とうさ
へぐとりて宰れ中待よ
芳のわぐ〜の役もるびくまでる
みさとせしたの笛しけ宰れ中ね
ふわりて風のくぐれのまよりり
歌 秋中ねの宰れ中ね
めくぬまでみやしろぐさ結ぶ細 ふくれのふ結ぶ
しとそうく
うひ結ぶ弁ぶかね
秋の第
秋の手
歌ぞうよ月と花とてどいれぐ〜ぬる
盃 秋の出くぬうるる 細 ぬうとうけ
ぞまるまるまとよぬてで
芳 秋の出くぬうるる
をぬうろびるまるまとよぬてで
盃芳の文秋判ぬの れ秋ぬり
文ぬり結れをぬり結よ
保の盃古結
のれるぞ乃れるひ一ぬぐりでぬれるのの
細 いまこ徒しぬ文
秋ぬ

ぬるるる

て五人も侍ぞ。うんとうつるうつれ。沖とて五人侍ぬ古くすうてうつれ。沖とて五人侍ぬ古くすうてうつれ。

みるさまよ　細　紙宝物をとりみるさま人とりてどうすうてく　孟　こゝは秋の行くのゆく

人のれば人のさまとうつ。姫をおそれうるかくれ一秋の秋のれもまれよりうるうくそ五

人の祭りつうんくくや　孟　ものの六の数公く

はうてあげのうく　細　袋上のうく

何云嘗の時うくとあげ　孟　秋ぬの又紫上のうく

らうく氏うんざーもうく。　秋ぬて

内侍うくうくそのやくとつと　孟　紫

むうく。　師　内侍は掌侍な

るべし。必内侍の役うち

でうの役の役

うくもこのつうでよ

師　紫式部は中宮の年に

おうで流よまうませど

もくでかてはうくうくあ

るく

うあげたうすべく

おの内侍云々の外て嘗

と云ふ人は今はでは式

の女の装束をうぬ役く

のううく

のうのうれうあ　細　中宮の

行啓うどは故代の例な

るべくうとうかよ云ひ給

ふ。　師　中宮の御

法。　細　中宮の御

ざりつうとうくくうくとうるさせ給

ふ。　師　中宮のやくくふれぬべくとのうひげ

つうのれけくうひいとうくあいぐやうつく

うよ。　細　原のうのうに繁昌うくく

うひくものさつくひうくふとあうくひうで

うくぬやうくうう。　細　紫上こ

らぬとくいくくとうりくんくうくうてま

うのがくせやうくうとあうとどくの祖い

ひとつくくうくう。　細　紫式部の家

ううくさよ。　師　うう所の式部は

うくくワ。　師　例のうどげうくくくくも。

うくくうり

云ふうるうくくうくくうくくも

孟　原のうるうげうくくうくくも

迎ふうるにうりて中宮の御

出ふうる

うくくくく

長文の作之服　晩来雀
度の作みぬん中文より一
篠の作きさらり孔水尾
可人

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

流の西伯のごと　細 勝月東方の意世のまこと学のこころ

そ。今の世乃ど（イニナシ）ほよかつもれど。あやまりそ[illegible]

[illegible]

細 勝月東方の意 [illegible]

[illegible]

細 学上

[illegible]

細 学上 [illegible]

[illegible]

細 学上の[illegible]

[illegible]

細 学上

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

孟原の主治をこの人乃感よ堪ぞ深をうごもく彼一白いろいろぬるものとうりく花

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古万葉集　細井貞雄

聖武天皇の御時に万葉の歌を撰して書にしるせり。万葉全部よりあるべからず。花万葉集一部廿巻。平城天皇詔侍臣撰之見古今序。又万葉抄五巻。一説貫之撰之一説紀蟲五人撰也抄古今序とふと文字よりは出来ることとうけたまはる

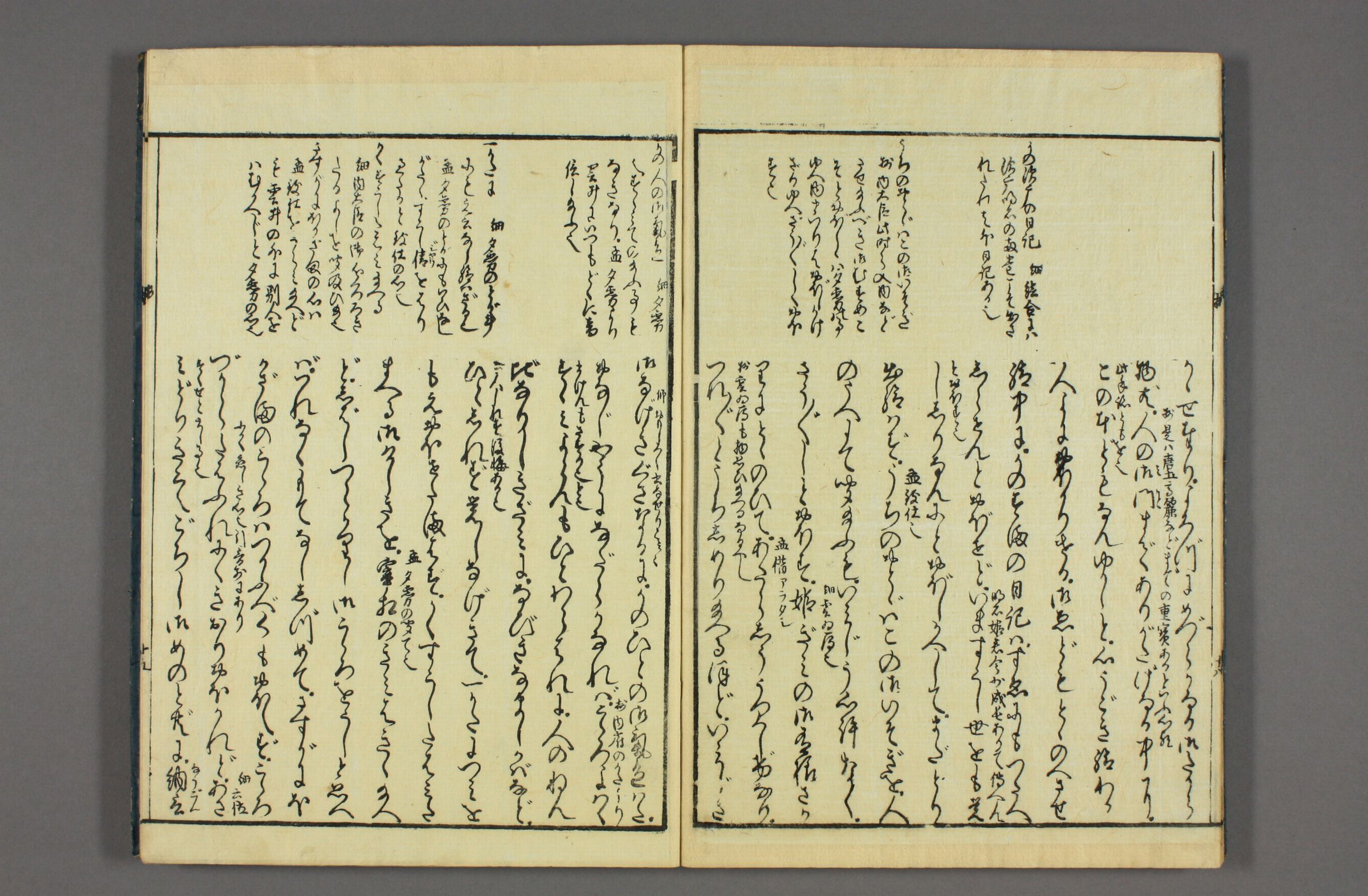
古今和歌集

花延喜代より撰られる集なれば宸筆もあるべきよしなり。深草の御時

[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

女のこころくしく

細 此段謡勝の段入を

つくし。海よみくり

盃人は女のうそ多く

多行よりくらとつけ

[illegible]

[illegible]

昔もみくろ

海寛平遺誡よ左る

四年 定年おん女事 有来

矣とあり。ぞよ注を見

よ源くだ。女の過てよみ

じくだ。[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

実名

やせよろぼひくんるくんとわろとあや

しーとうらとれどくこつくこゆ海

細巻くの詳の白旨ろくのこ

つるとぞ

の方ーとり舞れまつ人き

ゆ屋とぐこりの雪しまふ

ぐさと称もまろ乃

方ゑとりのめ一結いぐ分

あやしーさうまとと

つこりとて左ぐこさと

細々者こと世の人のおろや

といふこ物ちれぬ人や

人ましるまとわれどと

しこんやいりまふとうけ人よこるるいまーうさ世の人と四ーうまろとうん

血こゆ世よろびくくと、銭とハ左れまふまぐさよ中勢のれしをやよ人とうころくは

世よろびくくこと

とあろとわるしーと 細氏銭までいろろこの紙ぐ人ゆるいろりしーとうろるるしやと

雪のんよ不富わろと 仲 々者のんぐこりるさまにいるるるとくいろるわ

しゆりもと